

願
がん

生
しょう



令和4年7月
第46号

本当のすくいとは
自分勝手な決めつけから
解放されることです



念仏者の言葉

私たちが物事を選択する時の基準は当たり前ですが、それが自分にとつて良いか悪いかということになります。つまり善悪観であり、「良し悪し」というものが根底にあろうかと思います。当然私にとつて願つていらないような現状に直面すれば、非常に苦痛です。このように私たちが喜んだり苦しんだりする根底にはこの自分の中での「良し悪し」があります。雨が降れば「悪い天気」ということで嫌な気分になり、病気を患えば「最悪な気分」になります。しかし雨は私たちを嫌な気分にするために降つてているのではなく、雨が降るという道理によって降つていています。病気も私たちを困らせようとしている訳ではなく、道理によって起こります。つまり全ての出来事には道理があり、実はそれ自体には良い悪いはないのです。結局私の都合に合うか、合わないかだけです。このように私たちが一方的に悪い事や好ましくないと思いついれる事にも、それ自体には良いも悪いもないという事がほとんどです。本当は良くも悪くもない事を、私の都合で勝手に地獄を作つてそこで苦しんでいるのが私たちです。地獄を作るのは私自身です。救われるというのは私にとつて好ましい状況になる事ではなく、どこまでも自分の作った地獄から解放されることではないでしょうか。そうは言つても簡単に思い込みから解放されることはありません。その為には常日頃より外側ばかりではなく、自分自身をしっかりと見つめていく事が大切なのではないでしょうか。

祠堂経会のご案内



今年も祠堂経会の季節になりました。**祠堂経会**とは、これまで亡くなられたお寺の**ご門徒**の方々の法名を一同にお飾りし、読経を行い、**讃嘆供養**する仏事です。同時にこの一年間に亡くなられた**ご門徒**の物故者法要を勤めます。

昨年までの二年間は新型コロナウイルスの影響で、午前のみの勤修で、**お斎**（食事）の提供は自粛していましたが、今年は通常通り午後も勤修し、感染対策を行いながら形態を変えてお斎の提供を行います。亡き人への思いを込めた大切な仏事です。どなたでもお誘い合わせてお参りください。

日時	七月十六日（土）
時間	午前九時半～お勤め・法話
午後十二時～	お勤め・法話
法話	野田博俊師（朝日町明光寺住職）
お斎	午後の法話は当寺副住職が行います お斎（食事）を準備しています。感染対策を十分に行っていますので、是非お参りください。



毎朝の晨朝勤行



鐘楼堂の階段修理



花まつりの誕生仏



境内の草むしり



毎月の正信偈唱和会



慶賛法要の垂れ幕設置

お寺の日常風景



誌上法話「深く生きる」



先日「何故仏教を聞くのか」という事が書いてある本に出会いました。同じ聞くでも講演会やセミナーや研修会などがあります。これらは仕事や日常生活や健康など様々な役に立つ事を教えてくれます。話を聞いた後には「とても為になりました」、「とても役に立つ話でした」という感想をよく聞きます。テレビを見ていても役に立つ情報が溢れています。これはより良く人生を送る為の情報です。反面、仏教の法話を聞いた後に「とても為になりました」、「役に立ちました」という感想は聞く事が無いと思います。別に仏教の話を聞いても家計の足しになる訳ではなく、私たちの考える意味での役に立つという事はないかもしれません。だからお寺で法話を聞くよりも、より役に立つことを私たちは探しています。そんな時、最初に述べたある僧侶の「何故仏教を聞くのか」という言葉に出会いました。その方の答えは以下の通りです。

「なぜ仏法を聞くのか」それは「人生を深く生きるため」である。深く生きることなくして、人間は満足をもつて生き切る、安心をもつて人生を送ることはあり得ない。

深く生きる中味は「生かされて生きる、おかげさまの一生といたただくのみ」である。この「いたただく」とは目覚めさせていたただくことであり、「おかげさまの一生」といただくとは、一切の存在するものはみな支えられて生きていることに目覚めさせていただくことである。そのためには教えに出遇うことが大事である。

『深く生きる』

人生を「より良く」ではなく、「より深く」生きる事が仏教を聞く意義です。私たちは一生懸命生きていますが、多くは人生に深い意義を考えて生きているかと言えば、決してそうではないと思います。それは決して生活を便利で快適にするものではありません。そうではなく自分が自分の思いによって生きているのではなく、様々な人に支えられ、わがままを許されて生きていると、日々の生活のいたるところで気付かされることです。そのような事がなくては、いくら頑張って生きてみても、せつかく与えられたこの人生が薄っぺらいもので終わってしまうのではないかでしょうか。「より良く生きる」ことも大切ですが、「より深く生きる」ことこそが、人生における満足に繋がるのではないかと思います。

坊守日記



今年もお寺の庭の「しだれ梅」の木に、たくさんの方々が来ました。毎年梅干しや梅酒を作ったりしています。梅の香りがすると夏が近付くようで嬉しくなります。今年は夫である副住職と一緒に梅シロップを作る事にしました。何とかおいしくなれば思っています。また今年は祠堂経会も従来通りに一日勤める予定になり、少しずつお寺の行事や私たちの日常生活も元通りになつてきています。梅シロップがおいしく出来上がれば、「皆さんに飲んでもらいたいね」と話していました。写真の梅の木は梅の実を収穫した後のものです。また祠堂経会で門徒の皆さんにお会い出来る事を楽しみにしています。

編集後記



新型コロナウイルスの感染者は依然として数多くいますが、ワクチン接種が進み、重症者が減少することで社会活動が戻りつつあります。実際に娘の小学校行事も戻りつっています。あくまでも私たちの基本生活としてはこれまでと変わらず、人と接する際にはマスクをし、こまめな消毒やうがいを行う事などは変わりません。お寺の活動としては、ここ二年間は自粛が見られた年忌法事が最近は通常通り行われるようになり、京都の本山への納骨の問い合わせも増えてきました。「やつと法事を勤める事が出来た」とホッとしていた門徒の方の表情が印象的です。規模を縮小するなどの変化は見られますが、改めて亡きご先祖への思いは大切な事です。私たちが存在している背景には亡き人とのご縁があつてのことだと思います。お寺での法事も行っていますので、法事をお考えの場合はご相談ください。

辻徳寺

谷聖派跡
大人宗聖親三本柿の寺

〒938-0031
富山県黒部市三日市3214
TEL・FAX(0765) 52-0791
ホームページアドレス
<https://tokuhoji.net>

@temple.english_tokuhoji

新型コロナウイルスの感染者は依然として数多くいますが、ワクチン接種が進み、重症者が減少することで社会活動が戻りつつあります。実際に娘の小学校行事も戻りつつあります。あくまでも私たちの基本生活としてはこれまでと変わらず、人と接する際にはマスクをし、こまめな消毒やうがいを行う事などは変わりません。お寺の活動としては、ここ二年間は自粛が見られた年忌法事が最近は通常通り行われるようになり、京都の本山への納骨の問い合わせも増えてきました。「やつと法事を勤める事が出来た」とホッとしていた門徒の方の表情が印象的です。規模を縮小するなどの変化は見られますが、改めて亡きご先祖への思いは大切な事です。私たちが存在している背景には亡き人とのご縁があつてのことだと思います。お寺での法事も行っていますので、法事をお考えの場合はご相談ください。

今後の定例法座の予定は8月10日(水)13時半～です。
9月10日(土)“

毎月誰でも法話が聞けるお寺です。気軽にお越しください。